

《評価基準》

◎事業（取組）の実施状況及び事業実施による効果として、成果指標の達成状況により評価を行う。

評価		達成度評価基準
1	目標を達成	当該年度に実施すべき取組みを予定通り、計画的に行い、事業実施による効果が表れた。 「効果が表れた」とは、成果指標の実績値が目標値の 100%以上に達し、当該年度の目標を達成したものをいう。
2	概ね達成	当該年度に実施すべき取組みを円滑に行い、事業実施による効果が概ね表れた。 「効果が概ね表れた」とは、成果指標の実績値が目標値の 80%以上に達したものをいう。
3	やや遅れている	当該年度に実施すべき取組みを行ったものの、事業実施による効果が小さかった。 「効果が小さかった」とは、成果指標の実績値が目標値の 80%未満となったものをいう。
4	大幅に遅れている	何らかの課題があり、事務事業が滞ってしまっており、事業実施による効果が表れなかった。 「効果が表れなかった」とは、成果指標の実績値が目標値の 50%未満となったものをいう。

◎基本目標レベル（大分類）での評価においては、大分類ごとに位置付けられている事業（取組）の達成度評価の結果を基に、次の評価基準で判定し、計画全体の達成状況を把握する。

評価		達成度評価基準
①	計画どおり達成できた	大分類を構成する全ての事業（取組）において達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」であった。
②	概ね達成できた	事業の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった事業数の割合が 80%以上であった。
③	やや達成できなかった	事業の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった事業数の割合が 80%未満であった。
④	達成できなかった	事業の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった事業数の割合が 50%未満であった。

◎計画全体として次の成果判断基準に基づき、目標値に対する実績値で成果の状況を把握する。

成果		成果判断基準
A	非常に成果があった	全ての数値目標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合。「大いに成果が得られたとみなせる」とは、設定した全ての数値目標の実績値が目標値を 100%以上達したものをいう。
B	相当程度成果があった	一部の数値目標が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合。「概ね成果が得られたとみなせる」とは、数値目標の実績値がいずれも目標値の 80%以上達したものをいう。
C	成果があった	数値目標の達成状況は芳しくなかったものの、取組として前進したとみなせる場合。「数値目標の達成状況は芳しくなかった」とは、数値目標の実績値が目標値の 80%未満となったものをいう。
D	成果がなかった	数値目標と実績値に大幅な乖離があり、取組として前進したとは言えない場合。「数値目標と実績値に大幅な乖離がある」とは、数値目標の実績値がいずれも目標値の 50%未満となったものをいう。